

日本薬学会第 141 年会の開催方法変更のご連絡

(2021 年 1 月 18 日現在)

日本薬学会第 141 年会の組織委員会ではオンサイトとオンラインの併用によるハイブリッドでの開催に向けて鋭意準備を進めて参りましたが、2021 年 1 月 7 日に政府より緊急事態宣言（対象区域：首都圏の 1 都 3 県）が発出されたこと（その後 1 月 13 日に 11 都府県に拡大）、さらに開催地である広島市においても感染者が増加していることを受け、日本薬学会理事会と慎重に協議した結果、年会の安全かつ確実な開催のために、全てオンラインで開催することを決定いたしました。主な理由は以下に挙げる通りです。組織委員会としても苦渋の決定であり、皆様のご理解を何卒宜しくお願い申し上げます。

既に移動や宿泊のご予約をされている皆様におかれましては、キャンセル等のお手数をおかけしますことを深くお詫びいたします。尚、既に現地参加で登録をお済ませの方につきましては、当方にてオンライン参加に切り替えさせていただきますので、変更手続きは不要です。

特別講演とシンポジウムにつきましては、オンサイトでのご発表がオンラインに切り替わりました。深くお詫びいたします。一部変更がございますので、メールならびにホームページにて新しい発表方法等をお知らせいたします。

一般発表（口頭、ポスター）につきましては、完全オンライン開催に伴う変更はございません。

完全オンライン開催へと変更となったことに伴い、参加証は pdf 版での配布とさせていただきます。また、参加証の事前発送の必要がなくなりましたので、事前参加登録締切を 3 月 22 日（月）まで延長することといたしました。奮ってご参加ください。

日本薬学会年会では初めての試みとして、Late-Breaking Session を設け、ポスター発表限定の演題登録（締切：2 月 1 日 14:00）を追加で募集することといたしました。また、学生参加者への企業や病院・薬局などの紹介の機会としてキャリアデザインセミナーの募集も継続しています（締切：3 月 15 日）。詳しくはホームページに掲載しておりますので、奮ってご応募ください。

プログラム集にはハイブリッドでの開催として掲載されておりますが、原稿締切の後に緊急事態宣言が発出されたため、開催方式が変更になっております。ご注意ください。よろしくお願いいたします。今後の情報につきましては、方針が決定次第ホームページに掲載いたしますので、随時ご確認ください。

一年で最も厳しい寒さの時期を迎え、新型コロナウイルスの感染拡大も衰えを見せておりませんが、皆様がお健やかに過ごされますことを心よりお祈りいたします。

日本薬学会第 141 年会組織委員長 小澤光一郎

完全オンライン開催に至った主な理由

- 2021 年 1 月 7 日に政府より緊急事態宣言（対象区域：首都圏の 1 都 3 県）が発出されたこと。
- 開催地である広島市においても感染者が増加していることから、万全な感染防止策を施した場合にあっても接触感染や飛沫感染の可能性を完全には排除できず、現地参加者の安全を担保できないこと。
- 既にハイブリッド（オンサイト & オンライン）での準備を進めており、オンラインのみに切り替えても円滑な年会運営が可能なこと。
- 緊急事態宣言の発出に伴い、多くの大学、研究所、企業、病院、薬局等が出張の禁止や自粛の指示を出す可能性が高く、現地開催の意義が大きく損なわれてしまうこと。
- リスクを冒して現地開催を行い、参加者の中から一人でも感染者が出た場合には、濃厚接触者を含めた多くの方が登校や出勤をできなくなることから、新年度の授業や運営が成り立たなくなる可能性があること。
- 多くの薬剤師の方も参加される予定であり、薬剤師の方の感染が発覚した場合には、各医療機関はもとより、わが国の医療体制全般に対して計り知れない打撃を与える可能性があること。